

公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン 評価委員会 議事録

1. 日 時

令和3年12月2日（木） 午後6時25分から午後8時05分

2. 場 所

公立藤岡総合病院 入院棟2階 大会議室

3. 出席者

(1) 評価委員会委員

藤岡市 副市長	高橋 厚
高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科 准教授	木村 憲洋
藤岡市区長会 会長	秋葉 正道
藤岡市国民健康保険運営協議会 会長	反町 清（新任）
群馬医療福祉大学 看護学部 教授	源内 和子
藤岡市鬼石商工会 会長	林 直男
藤岡商工会議所 副会頭	守口 謙二
藤岡多野医師会 会長	山崎 恒彦
関東信越税理士会 群馬県支部連合会藤岡支部 支部長	小林 仁（新任）

(2) 病院長

公立藤岡総合病院	塚田 義人
藤岡市国民健康保険鬼石病院	工藤 通明

(3) 事務局

公立藤岡総合病院	
経営管理部長	新井 滋
患者支援センター参事兼課長	横坂 政彦
企画財政課長	新井 恵介
企画財政課長補佐	齋藤 功志
企画財政課企画グループリーダー	萩原 和美
藤岡市国民健康保険鬼石病院	
事務長	川端 敦
参事兼事務課長	桜井 崇裕
事務課長補佐兼庶務係長	櫻井 力
事務課医事係	前川 尚也

4. 欠席者

なし

1 開 会 （午後 6 時 2 5 分開会）

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

皆様、こんばんは、本日は公私ともにお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。定刻前でございますが、お集まりのようですので、これより「公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会」を開会させていただきます。私は、本日の進行をさせていただきます鬼石病院事務課長の桜井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、事前に郵送させていただきました。本日の会議で使用する資料は、次第、公立藤岡総合病院改革プラン、藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン、不備なものはございませんでしょうか。

2 委嘱状交付

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

次に、次第の 2、「委嘱状の交付」をさせていただきます。委嘱状につきましては、本来ならば、公立藤岡総合病院の管理者、鬼石病院の開設者であります藤岡市長より交付すべきものでありますが、本日は、出席できませんので、当委員会の委員長であります高橋副市長より委嘱状を交付させていただきます。

委員長が席を回りますので、お名前を呼ばれた方は、ご起立頂き、委嘱状をお受け取り下さい。はじめに、反町清様。

【高橋委員長】

委嘱状、反町清様。公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会委員に委嘱します。令和 3 年 1 2 月 1 日、多野藤岡医療事務市町村組合・管理者・新井雅博。藤岡市国民健康保険鬼石病院・開設者・新井雅博。どうぞよろしくお願い致します。

【反町委員】

よろしくお願い致します。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

ご着席下さい。続きまして、小林仁様。

【高橋委員長】

委嘱状、小林仁様。公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会委員に委嘱します。令和 3 年 1 2 月 1 日、多野藤岡医療事務市町村組合・管理者・新井雅博。藤岡市国民健康保険鬼石病院・開設者・新井雅博。どうぞよろしくお願い致します。

します。

【小林委員】

よろしくお願い致します。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

ご着席下さい。ただいま委嘱状を交付させていただきました新任の委員をご紹介します。

はじめに、反町清様です。藤岡市国民健康保険運営協議会会長であります。学識経験者として委嘱させていただきました。

次に、小林仁様です。関東信越税理士会群馬県支部連合会 藤岡支部会長であります。経営状況分析の専門家として委嘱させていただきました。今後ともよろしくお願い致します。

3 あいさつ

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

初めに、事務局であります鬼石病院の工藤病院長よりご挨拶を申し上げます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

鬼石病院の工藤でございます。コロナということで、会議も開催できないのではないかと考えておりましたが、最近ようやく、公立藤岡総合病院の塚田院長先生のお力や、医師会の山崎先生のご協力で、このような会議もできるようになってきましたので、ぜひ我々としては、こういった会議が継続できるように、元の社会情勢に戻れるように努力したいと考えております。本日は、私共の病院も含めまして色々ご意見を頂けるということで、毎年楽しみにしていたものですから、ぜひ色々なご意見を伺って今後の病院経営に役立てていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

ありがとうございました。続きまして、「公立藤岡総合病院の塚田病院長」より、ご挨拶をお願いいたします。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

藤岡総合病院病院長の塚田と申します。本日は、大変お忙しいところ、公立病院改革プランの評価委員会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

平成28年度からの改革プランの最終年にあたる評価になりますが、皆さんご承知のとおり、コロナ禍による大きな変動が改革の計画と実績に乖離をもたらしておりまして、皆さんも、これからの資料の中で、これだけの変動があったというところも具にご覧になれると思いますが、我々としては、感染対策に貢献をしながら今回の病院機能というところに如実に苦慮

していたというのが正直なところではあります。

また、今後の継続計画につきましても、どこを前提として目標設定するのか、色々と受診状況が変わってきましたし、診療報酬改定もこれから見込まれていますので、健全な経営を大きな目標とするわけではあります、色々な状況を見ながら計画を推進しているところであります。皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はよろしくお願い致します。

4 議 題

(1) 改革プランの説明及び進捗状況について

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

続きまして、次第の3、「議題」となります。病院改革プランは、新公立病院改革ガイドラインに基づき作成されたもので、点検評価を年1回以上行う事とされております。

プランは、先ほど塚田院長先生からお話がありました通り、平成28年度より5年間の計画を作成いたしました。本日は、委員の皆様には、計画の最終年度であります令和2年度の実績について評価をいただきます。

なお、今回の会議内容は公表する事になっておりますので、この委員会の会議の内容は録音させていただき、議事録を作成後、それぞれの病院のホームページで公開することとなりますので、あらかじめご了承をお願いします。

それでは、これより議事に入りますが、設置要綱第6条第1項により、「会議の議長は、委員長が務める。」こととなっておりますので、これ以降は、委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

それでは、高橋委員長よろしくお願い致します。

【高橋委員長】

それでは、皆様のご協力をいただきまして、議事を進めさせていただきたいと思っております。先ほど、工藤院長、塚田院長からお話がありました。

昨年の2月から、コロナということで、発熱外来やPCR検査、ワクチン接種と、本当に目まぐるしい1年半でありました。その中で、今日は、医師会の山崎会長さんもお見えになっていますが、本当に医師会の先生方、藤岡総合病院、鬼石病院、多大なご協力をいただきまして、お陰様で藤岡市もここ40日以上感染者は出ておりませんし、ワクチン接種も12歳以上で85%以上、65歳以上で92%ということで、多くの方にワクチン接種を行っていただきました。関係者の皆様には、この場をお借りして、御礼を申し上げたいと思っております。

1年半の間、両病院とも非常に厳しい状況の中でしたが、皆さんが頑張っていただいて結果も出しているということだと思っておりますが、この場は病院の中身を議論させていただく場でもありますので、皆さんには忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、今後の両病院の運営に活かせるようにしていきたいと考えております。

それでは、着座にて議事を進めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、議題（１）、改革プラン令和２年度実績の説明と進捗状況について、藤岡総合病院、鬼石病院の順で、事務局から一括で説明をお願いします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課企画グループリーダー 萩原】

公立藤岡総合病院・企画財政課・萩原と申します。よろしくお願い致します。

新公立藤岡総合病院改革プラン令和２年度の説明をさせていただきます。

病床は、急性期病床２９５床、回復期リハビリテーション病床４８床、地域包括ケア病床４７床、人間ドック５床、感染症４床の、合わせて３９９床として稼動しております。回復期リハビリテーションと地域包括ケア病床を効率的に稼動することにより、平均在院日数の短縮を図り、現在のところ、急性期病床の単価は６８，０００円を上回っております。病床種別については、地域医療構想に沿う形での病床の開設により在宅復帰に向けた診療の強化を図っております。

それでは、２年度における医療機能等指標について実績値を報告させていただきます。１ページ下段の（４）医療機能等指標に係る数値目標をご覧ください。

救急患者数では、計画に比べ延べ患者数は６，８２４人の減、全身麻酔の手術件数は計画値より２９０件の減となっております。これは新型コロナウイルス感染拡大の影響です。新型コロナウイルスも徐々に落ち着きを見せているため、今後は地域の拠点病院として現在開設している急性期病床２９５床の稼働を高め、医療の質の確保に努めて参ります。

紹介率は計画と比べ１２．３ポイント増の６５．５％、逆紹介は３７ポイント減の８６．０％となります。地域医療支援病院としての要件を確保するため、今後も紹介率、逆紹介の率を高めて行くよう努めて参りたいと考えております。

医療相談件数は、総合相談室のサポートにより、計画と比べ２，７０６件の増加となっております。

患者満足度は、マイナス４．５ポイントの減となっております。

患者本位の医療を担保するため、今後も引き続き患者サービスの向上を意識し、職員一丸となって努力していきます。

続きまして、２ページをお開きください。

（２）経営の効率化について説明させていただきます。

まず令和２年度の各実績数値ですが、「１）収支改善に係るもの」の中では経常収支比率が９５．７％で計画と比べ４．６ポイント、医業収支比率８９．０％で１０．４ポイント計画を下回る結果となりました。

計画で比較しますと、医業収益が約９億円の減、医業費用が約３億円の増となります。要因としては、収益については、新型コロナウイルス感染症による患者数の減であり、費用については、新入院棟開設時の機器備品等の導入による原価償却費増加と化学療法の増加に伴い薬品費が増加していることです。

２）「経費削減に係るもの」の中の「診療材料費対医業収益比率」は、計画に対し、０．３ポイントの増加、薬品費の対医業収益比率は、５．４ポイントの増加、職員給与比率は３．８ポ

イントの増加、100床当たりの職員数は、1.8ポイントの減少となりました。

3) 収入の確保に係るものとして、1日当たりの入院患者数ですが、計画値から76.9人の減少となりました。元年度実績からは、43.9人の減となっております。1日あたりの外来患者数ですが、計画値からは、103.4人の減、元年度実績値からは、122.9人の減となっております。

4) 経営の安定性に係るものとして入院単価、外来単価をあげておりますが、入院単価においては計画よりも7,508円増、元年度実績からも3,806円の増となっております。外来単価についても計画値を5,602円上回ることができました。現金預金残高では、前回報告同様、平成29年度での旧入院棟の残債の一括償還を行わなかったことで、残高が変更されています。

4ページをお開き下さい。収支計画、収益的収支についてです。2年度の実績値が赤字で示されています。経常収益は上から10行目、111億7100万円で、前年度比1億500万円の増となりました。一方で、中段にあります経常費用は116億6700万円で、前年度比、9400万円の増となり、経常損益では4億9600万円の赤字、純損益でも3億7300万円の赤字となりました。要因としては、新型コロナウイルスによる患者数減少に伴う医業収益の減少、減価償却費、材料費、及び経費の増加が影響しております。

続きまして5ページの、収支計画（資本的収支）、についてです。

収入は2年度、企業債の借り入れが4,900万円。構成市町村の企業債負担金5億5,100万円となります。中段にあります支出については統合時の医療機器整備事業の元金償還が始まり増加しております。

以上、誠に簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長補佐兼庶務係長 櫻井】

続きまして、鬼石病院の改革プランを、鬼石病院事務課庶務係長の櫻井が説明させていただきます。

資料2をご覧ください。

まず、近年の経営状況につきましては、平成20年度から赤字に転落し、平成29年度まで赤字を計上、30年度には、プラス164万円と10年ぶりの黒字計上となりましたが、令和元年度には、6200万円の赤字計上となり、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による外来患者数の減少や副院長の死亡退職に伴う医師の減少により、大変厳しい1年となりましたが、公立藤岡総合病院の後方支援病院としての機能が発揮されたことや、新型コロナウイルス感染症に関連する補助金等により、484万円の黒字を計上することができました。

それでは、1ページの上段、病床数につきましては、一般病床52床と療養病床47床の合計99床を維持しています。一般病床では地域包括ケア病棟入院料をいち早く取り入れ、現在は全床で算定しており、主に、公立藤岡総合病院からの急性期後の患者の受入れや在宅復帰への支援に力を入れています。

診療科目におきましては、内科、外科、整形外科をはじめ、計10科を標榜し、総合的な医療を維持・提供しており、専門的な医療については基幹病院である公立藤岡総合病院へ紹介する体制をとっています。

続きまして、「(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化」についてですが、当院は、奥多野地域及び埼玉県北部地域を診療圏とする病院として、地域住民が安心して生活できるよう、医療技術や設備の充実を図るなど、医療環境の整備に邁進してきました。

また近年は、国が推進しております「地域包括ケアシステム」の構築に向け、高齢化の進んだ地域医療を担う病院としての役割を果たすべく、地域包括ケア病棟入院料の導入や、在宅復帰を支援するための訪問看護・訪問リハビリ事業の拡充、介護系施設への往診、急性期を担う公立藤岡総合病院や退院後に関わる高齢者施設及び居宅介護などとの連携の強化等、様々な取り組みを継続実施しております。

それでは、続いて令和2年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。1ページ下段の④、医療機能等指標に係る数値目標をご覧ください。

令和2年度の実績値が赤い文字で表記してあります。計画の目標値に対し、在宅復帰率では、マイナス7.4ポイント、医療機関からの入院件数では0.1件、目標値を上回りました。医療機関からの入院については、地域医療連携室を中心に、より一層周辺の医療機関との連携を強化していきたいと考えております。

訪問事業では、看護については17.1件、リハビリでは、3.4件、通所リハビリにおいては、5.6件、それぞれ目標値を上回りました。在宅支援事業については、引き続き拡充に努めたいと思っております。

患者満足度については、昨年よりプラス2.5ポイントの97.1%でした。このアンケートにより患者様の貴重な意見が得られ、当院の理念である「患者本位の医療」の遂行のため、職員一人ひとりの意識を新たにしたところです。今年度以降、目標値を上回るよう、努力を重ねているところであります。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。

まず、令和2年度の①経営指標に係る各実績数値ですが、「1) 収支改善に係るもの」の中では経常収支比率が100.4%でプラス0.4ポイント、医業収支比率85.6%でマイナス0.1ポイントとなりました。

3) 収入確保にかかるもの「1日当たりの入院患者数」では、90.5人でプラス2.5人。「病床利用率」は91.4%プラス2.5ポイント目標値を上回りました。これは、地域医療連携室の対応により入院の受入れ体制が改善したことによるものです。

しかし「1日当たりの外来患者数」ではマイナス20.6人と、令和元年度の実績値よりさらに6.8人減少してしまいました。これは、過疎化による地域人口の減少が主な要因と、コロナによる受診控えもあると考えています。また、前後しますが、「2) 経費削減に係るもの」については、医業収益（主に入院収益）の増収等により、令和元年度に比べ改善しております。

続きまして、3ページをお開きください。

(3) 再編・ネットワーク化についてですが、これまで述べてきたように、厳しい経営状況の中、持続した地域医療を提供するには、まずは、人材の確保が前提となります。ここ数年、医師や薬剤師等の補充に苦慮しているところではありますが、現在、公立藤岡総合病院、群馬大学病院より、医師を派遣していただき、病院機能の維持を図っている状況です。

続きまして、4ページをお開きください。

1. 収支計画（収益的収支）についてです。

経常収益は上から10行目太線のところですが、12億3,200万円で前年度比3.9%の増で、マイナス4,600万円となりました。経常費用は、中段の太線のところですが、12億2,700万円で前年度比1.7%減、金額で2,100万円のとなり、経常損益では500万円のプラス、純損益でも同じく500万円の黒字となりました。

続きまして、5ページをお開きください。

2. 収支計画（資本的収支）についてであります。中段にあります支出の欄、令和2年度の建設改良費は4,800万円となっております。建設改良費の内容は、医療機器の購入費であります。購入した主な器具等は、生化学自動分析装置、デジタルX線テレビシステム、患者監視モニター用送信機、訪問看護システム等、であります。

施設整備については設備の長寿命化を図るため浄化槽改修工事を行いました。

続きまして、6ページをお開きください。

それぞれの経営指標をグラフ化したものですが、青が計画、赤が実績となりますので、ご覧ください。

以上、誠に簡単ではございますが、鬼石病院改革プランの説明とさせていただきます。よろしくお願い致します。

【高橋委員長】

事務局からの両病院の説明が終わりました。委員の皆様からのご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。

まず、医療経済ご専門の木村先生の方から、ご意見をお願いしたいと思います。

【木村副委員長】

公立藤岡総合病院、鬼石病院ともに、一番コロナが厳しかった頃で、患者数は確かに減っておりますが、資金不足比率が改善していますので、それほど大きく経営が悪化したということがなく非常に良いことと思っております。2020年をなんとか乗り切った数値的には悪くない状況、というのが、私の感想ということとさせていただきます。一方で、資金が若干減っているというのが両病院とも毎年変わりませんが、年々改善できるように数値も上がっていますので、これからコロナ後を考えて頑張ってもらいたいと考えています。

【高橋委員長】

ありがとうございました。では次に、同じく地元の群馬医療福祉大学の教授であります源内先生のほうからお願い致します。

【源内委員】

群馬医療福祉大学の源内と申します。よろしく申し上げます。

藤岡総合病院さん、鬼石病院さんには、学生の実習で日々お世話になっております、ありがとうございます。そして、コロナの状況で、いずれも同じなのですが、実習ができなかったという大学が全国の8割です。そんな中、苦しい状況でもたとえ1日でも、という気持ちを持って実習をお願いして参りました。本当に助かっております。

それ以外でも、学内で学生たちに教員たちのシミュレーション等をやりまして、頑張っ乗り越えてきました。

一点最初に質問なのですが、6ページの鬼石病院さんのグラフですが、職員給与比率の部分は、赤と青の数字自体は逆ではないでしょうか？

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

お答え致します。6ページの職員の給与比率、赤の点線と青の実線のところだと思いますが、青が、当初28年度に計画した数値、赤が、それに対する実績、で合っております。

ただ、令和2年度の部分で、線自体は合っているのですが、数字が上下反対となっております。申し訳ありませんでした。

【源内委員】

また、鬼石病院さんの最初のご説明の中で聞こえてきたのが、令和元年度か2年度でしたか、副院長先生がお亡くなりになられ、医師数が減少したという厳しい状況の中でも頑張っこられたのだなという思いが致しました。

また、鬼石病院さんで、コロナの補助金について、私はよく分からないのですが、恐らく世の中のニュースを見ていると補助金はたくさん出たのだらうと思うのですが、それだけ頑張ってきて、ワクチン、PCR、発熱外来、全部乗り越えてやってこられたので、それに見合った補助金は出たのだらうと思っておりますが、木村先生、こういった改革プランの中に、そういう数字というのは盛り込む必要はないのでしょうか。

【木村副委員長】

私もすでに確認をしておりますが、こちらの中には入っております。藤岡総合病院であれば4ページ、収入の部分(2)国、県補助金に8億3,500万円入ってたりします。鬼石病院は、病院の特性からしてなかなか導入も厳しいところがございますので、中の患者さんを守るということもあり、補助金の方はそれほどいただいていないというかたちになります。

どうしても病院は、予防接種もそれほどもらえない金額になっておりまして、どちらかというと、1病棟潰して運営したりすると、金額が多く出るものですから、なかなか2病棟しかない病院で一つ病棟を潰すというのは、鬼石病院の性格からして、近隣の患者さんをコロナ以外で受け入れないことにするというのに繋がりますので、なかなか難しいということが2020年はあったと考えております。

【源内委員】

ありがとうございました。見落としていたようです。国の補助金が、計画は29だったけれども実績は835だったということですね。

【高橋委員長】

ありがとうございました。今の源内先生のご発言に対して鬼石病院、藤岡総合から何かコメントがあればお願いします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

それでは鬼石病院からですが、藤岡総合病院さんは、病棟を閉鎖してコロナの治療を行い、非常に努力されておりましたが、その反動といいますか、入院・外来患者さんが減るというのは、仕方ないところがあり、補助金でも補えないほどの負担があったと思います。

当院の場合は、入院は受け入れておりませんが、PCR検査、発熱外来の設置、ワクチン接種はできるだけさせていただいて、入院患者数の減少には結びつかなかったと思います。

先ほどお話が出ましたが、昨年今頃に、残念ながら副院長先生がお亡くなりになりました。常勤医2という数字が出ておりますが、色々な施設からサポートをいただきながら、なんとか病院を運営して、マイナスにならないようにと、努力してきました。その分、多少人件費は医師を派遣していただくには、常勤医から比べますと高額になりますので、その辺の負担は出ているのかなと思いますが、今年度は、3名の医師の補充がありましたので、状況はだいぶ変わってきていると思います。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

先程の補助金について補足をさせていただきます。

実際8億3500万円というのが全体の補助金で、そのうちコロナによるものが約8億円、そのうちの空床補填として入っているものが6億6,400万円です。残りは、コロナに対して人件費、危険手当、減収の補助、消耗品等に関して補填されたものになります。

【高橋委員長】

ありがとうございました。続いて、経営分析のご専門の立場から、小林さんの方からお願い致します。

【小林委員】

税理士会の小林と申します。本日はよろしくお願い致します。

コロナ禍の中、医療に関わる方々のご苦労をお察し致します。皆様のお陰で、感染者の人数もようやく少なくなってきたと非常に感謝を感じております。

私の方は初年度でありますので、数字を見させていただいたところの感想を述べさせていただきます。

まず、藤岡総合病院さんのところですが、1 ページ目、④の(2)その他、患者満足度の目標数値が90.5%のところは86%ということで、少し下回っているようですが、前年実績に比べればかなりのポイントが上昇していると思います。なかなか高度で専門的なサービスのところで売り上げを伸ばすということにはできないと思います。今後の医療収入を伸ばすためには、患者様の満足度を充足して、患者さんに安心して来ていただけるところが大事になってくるかなと感じておりますので、ぜひ、このような患者さんの立場に立ったというところをさらに力を入れていただければと感じております。

また、2 ページ、③収入増加や確保対策のところ、DPC 請求において機能係数の上昇を目標にして、施設基準の検討や整備を行ったことは非常に中身的に貢献しているところではないかなと考えております。こちらは包括請求ということになるとと思いますので、そちらの方がよろしいかと思っております。また、金額が大きくなってくると、クレジットカードなどの決済方法は一般的にも手数料がかかってきますし、資金繰りの面でもタイムラグが生じてしまいますので、未収入金をなくすことは非常に大事なことですが、なかなかバランスが難しいところではあるかと思っておりますが、そういった部分も、徐々に現預金の残高が少なくなっている部分を見ますと、クレジットカードなどの利用率というのにも注意しながらやっていくことも必要かと感じました。藤岡総合病院さんについては以上になります。

鬼石病院さんにつきましては、藤岡総合さんと役割が異なっていてどちらかという慢性期的な対応が主軸になってくるかと思っております。医師数の減少という部分が心配に思っておりましたが、今年度は3名補充とお聞きしたので安心しております。

今期の純損益でプラスの計上になっているところは、もし、人材確保の面で苦労されてお給料が出なかった面で万が一プラスが出ていたら、内容的に良いプラスではないと思っておりますので、患者様の満足度が非常に高い状況にあると思っておりますので、このような医療体制を維持できるように今後も進めていただければと思っております。

【高橋委員長】

ありがとうございました。今の小林委員からのお話から何かありますでしょうか。

【公立藤岡総合病院 経営管理部長 新井】

今、委員さんから患者満足度のお話をいただきましたが、当院の場合は、令和2年度実績として86%ですが、その内訳について説明させていただきます。

満足度が低いものとしては、令和2年以前もそうなのですが、駐車場の使いやすさ、レストランや売店についての部分がポイントを下げている要因になっています。

スタッフの態度対応については前年度と比べてポイントを上げています。待ち時間、院内の案内表示の分かりやすさ、は改善が図られています。駐車場の使いやすさ、レストラン、売店につきましても、今後、改善をしていきたいと考えております。

【小林委員】

今のお話を伺いまして非常に安心いたしました。ありがとうございます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

鬼石病院から、医師確保の問題について一言付け加えたいと思います。

公立病院は群大に頼っているところもありますが、なかなか医師派遣が難しいというのが現状です。当院の場合、非常に苦勞しておりまして、だんだん減ってきているというのが現状でありまして、なかなか代わりの医師は見つからないと。民間病院ですと給与が高額になりますので、公立病院は非常に希望者も少ないというのが当然のことです。

もう一つは専門医の制度の問題がありまして、どうしても大きな病院に行かないと専門医の資格が取れないあるいは更新できないということになりまして、私どもの病院に来たいという希望者はなかなか出てこないのが現状です。

その中でも研修医の制度が昨年から変わってきまして、当院のような病院も1ヶ月は経験をして地域医療を学ぶという機会が出てきましたので、今後10年20年先になるかもしれませんが、若い先生方の意識の変革に関わるかと思っております。

もう一つは、市のご協力もありまして、群馬大学循環器の教授でありました倉林先生が当院に着任されました。藤岡ご出身で、日本の循環器学会の先端を走っていた先生であります。先生がおっしゃるには、やり残したことがある、と。藤岡市の市民の方々の治療に関わって来なかったことが心残りだと仰って、当院へ来てくださいましたので、これから当院としては先生をお支えして盛り立てていきたいと考えております。

【小林委員】

ありがとうございました。

【高橋委員長】

それでは、地元の医療関係者の代表として、山崎先生、お願いできますでしょうか？

【山崎委員】

まず、藤岡総合さんですが、紹介率が上がった分と、だいぶ逆紹介もしていただいております。委員長からもありましたけれども、この地域で完結できる医療を、ということで、患者さんを紹介するにあたって、メインは患者さんの希望ですが、診療科として網羅できている藤岡総合さんへお願いすることは多々あるので、非常に心強く思っております。

コロナの補助金が入ったというのはあると思いますが、薬剤費が上がっていますが高額な化学療法は薬剤費などが上がっているというのは、仕方ないところであると、そのような患者さんが増えているということでもありますから、単価が上がってくるので大変だと思います。

それから、大学の実習生の話もありましたが、当地区の私共の医師会の准看学校もお世話になっております。色々と諸事情がありまして、看護学校もあと1年で閉校になりました。それまであと1年よろしくお願い致します。

鬼石病院さんについてですが、国の補助金の部分がずっとゼロなんです。これは全然ないんです。教えていただければと思います。

鬼石病院さんは、副院長先生が亡くなられて本当に大変なところ、5病院の中で、藤岡総合病院さんの最後の後方支援病院ということ、また、在宅介護の患者さんのレスパイト入院に対しても色々のご協力をいただいておりますので、感謝を申し上げます。

【高橋委員長】

ありがとうございます。補助金の部分について鬼石病院からお願いします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

鬼石病院の補助金の関係についてお答えさせていただきます。資料2の5ページになります。資金的収支、こちらの収入のところ、6、国（県）補助金というところですね、多額ではないのですが、国保調整交付金というものがございまして、医療機器を購入する際に補助金を頂いております。令和2年度につきましては、赤字の部分、700万の補助金を頂いております。ちなみに、4ページ、収入、2の（2）の部分、国（県）補助金とありますが、こちらずっとゼロが続いているのですが、令和2年度、1800万とありますが、こちらが鬼石病院でのコロナに対する補助金であります。藤岡総合病院さんと比べますと、10分の1以下になります。鬼石病院も、感染対策を行ったうえでの医療体制を確保すること、帰国者接触者外来の開設等の補助金、コロナ関係で5本ありますが、約1800万ということで頂いておりますが、鬼石病院の収入にとって大きいものでございました。以上です。

【高橋委員長】

続きまして、保険者の代表として、国民健康保険運営協議会会長の反町委員さん、お願い致します。

【反町委員】

お世話になります。こういった会議は初めてなので、戸惑っているところもあるんですけども、だいたい聞きたいところは小林先生の方から聞いていただいたのですが、改革が一番大事ですが、改革というよりも、第一はやはり患者さんへ厚い施しをしているというのが医療の目的だと思います。その辺はこの改革プランに載って、もう何年もやって実績も上がってきていると思いますので、やはり足りないところは、母体である医師会に繰り出していただく、と、ぜひ副市長の方からお願いしていただいて、先生方の負担も軽くなると思いますのでそういうふうな方向でやっていただきたいと思います。と思っています。

鬼石病院については、やはり、地域の人口、患者さんが非常に少ないということでもあります。私も以前お世話になっていたときに、ずーっと落ちっぱなしで何とも言いようがなかったんですけども、ここ何年か黒字だったということでございますが、先生方が相当苦勞しても、病院の経営ということに対しては大変な部分があると思います。

その辺は、私たちも、市民として協力していくように各方面に声をかけていただいて、医師不足ということが一番の問題だと思いますので、ぜひその点は、総合病院、鬼石病院とも、先生の確保に全力を上げていただきたいと思います。私からはまだその程度のことくらいしか分からないと

いったところでは、ありがとうございました。

【高橋委員長】

ありがとうございました。まず、最初の1点目、市からの繰り出しについては、反町委員が仰ったとおり、藤岡総合については9割、鬼石病院については100%、藤岡市が繰り出しをしております。ただ、基本的なルールがありますので、無限というわけにはいきませんので、できる限りしっかり支えていく、という姿勢でいますので、藤岡市としてもしっかりやっていきたいと思っております。2点目の、医師確保については、どうでしょうか。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

コメントありがとうございます。

医師確保について、当院も毎年毎年、人事は綱渡りでありまして、まだまだ不足している診療科があります。総合病院とは言いながら、常勤医が不在になった診療科、眼科、耳鼻科と2科ありますし、メジャーなところだと、内科の中では消化器、神経内科と、逼迫しております。大学の派遣だけではなくて独自にWebのほうでも募集を出すなど確保に努めております。

専門医制度というのがありまして、初期研修が終わったあと、今度は3年間また専門領域の研修ということで、大学を中心にして在籍するという制度になっています。その中で、3年間のうちの1年間だけでも当院にきていただく、修行の身ではありますが一人前の実力を持って十分診療のスタッフとしても活躍できる人材を確保するということがカギになってきていると思います。その辺もまた確保に努めて、市の方からも大学の病院長へ直接交渉に毎年行っていたかきまして、藤岡地域の病院でこの領域が不足しているんだと、消化器や神経内科、それから救急ですね、救急患者さんが多い中で、弱点になっておりますので、協力していただけるよう話をしております。以上です。

【高橋委員長】

ありがとうございました。続いて、市民代表の区長会の秋葉会長さん、お願い致します。

【秋葉委員】

コロナ禍で大変な状況の中、皆様方の頑張りで、感染者の数字も落ち着いているのかなという気がいたします。我々地域住民として、市民としては、患者満足度に一番関心が高いわけがありますけれども、藤総さん、また、鬼石病院さん、それぞれ毎年満足度が上がってきているという数字を見させていただきまして、良かったなと思います。私も先般、病院にお世話になったんですが、入口のところから「ご苦労様です」という言葉をお掛けしていただいて、大変親切な受入れをしていただきまして、大変良かったかなというふうに思います。

数字的には、先ほど、小林先生の方からもお話がありましたけれども、それぞれ頑張っていたいて数字の方も落ち着いているのかなという気がいたします。

藤総さんにおいてはまだちょっと大きなマイナスを来しているようではありますが、鬼石病院さんについては、500万のプラスということでご報告をいただきました。ぜひ、これ

からも頑張っていたいただければ、というふうに思います。

そんな中で、一つお願いがありますが、インフルエンザの注射の関係で、鬼石病院さんに行った患者さんなのですが、普段あまり来ていないので受診ができないということで困った、という方がおりました、藤岡の病院に来て注射を打ったというお話がありました。それを見ますと外来患者数が64.4%と、前年よりもかなりマイナスになっているというようにお話もありましたけれども、何人か、そのようなお話が私の耳に入ってきましたので、ぜひその辺については、お考えがいただけるのかどうかということでもあります。よろしくお願い致します。

また、先程、工藤院長先生からお話がありましたけれども、倉林先生、大変なご活躍で、評判がいいようでありました。以上です。

【高橋委員長】

ありがとうございました。この件について、お願い致します。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

インフルエンザワクチンにつきましては、今、全国的に不足していて、昨年度の7割から8割くらいの製造量ということで、なんとかワクチンができるようにと考えておりました、市長さんからもぜひ安定した注射体制がとれるようにということで、個人的には、問屋さんが毎日薬を届けに来て下さるわけですけれども、問屋さんに必ず会って、毎日頭を下げて、明日何本持ってきて下さい、明後日何本持ってきて下さい、というような状況が続いているような段階です。日によってですね、200本入ってきて今週はもうできない日もありますし、先週から今週にかけては今在庫も200本くらいあります。今日は、吉岡に住んでいるご夫妻が、吉岡の開業医さんに相談したら無理だと言われたので、次に、群馬中央病院に電話をしたら、当院（鬼石病院）ならできそうだということで、当院に来られましたけれども、みなそういうことで融通し合って、なんとか努力しながらやっております。当院が特に断っているというつもりはありませんので、できるだけ確保して、特に藤岡市民の方を中心にさせていただいているということでもあります。ただ、自由に全部やりますよということになりますと、恐らく1日で全部なくなってしまいますので、来た患者さんには申し訳ないですけれども、かかりつけの方で65歳以上は優先してやっております。ただ住民の方であるとか、鬼石の三波川の方も今日も2、3人来ましたけれども、地元の人あるいは藤岡の人はやらせていただきます、というかたちで、うまく渡るようにしているつもりです。なかには断られたという方もいると思いますが、全国的には仕方がないかなと考えております。

以上です。

【秋葉委員】

大変すいません。たまたまだったと思いますが、そのようなお話をいただきましたので。

【山崎委員】

今の話の追加で、うちなんかはもう、完全に電話で門前払いです。かかっていない人は「で

きません（ガチャッと切る）」までは行きませんが、すいません、できません、という感じです。かかりつけの人の数を確保するのがやっとです。ほとんどお断りしています。そういうところが多いと思います。

【秋葉委員】

普段かかっていない元気な人なので、どうしても打ちたいんだけど、というお話でありましたので。勝手なことを言って申し訳ございません。ありがとうございました。

【高橋委員長】

ありがとうございました。続いて、産業界の代表で、まずは、守口委員さんお願いします。

【守口委員】

商工会議所の副会頭を仰せつかっています守口と申します。日々、商工会議所の活動には、ご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

その中で、今、オミクロン株というものが出てきまして、アメリカや韓国でも、非常に多く出てきております。日本も出てきたということです。そういった中で、3回目のワクチン接種が始まるというところで、また藤岡商工会議所としても色々考えを持っていますので、市と協力しながら、もちろん藤岡総合病院さんともコミュニケーションを図りながらやれることはやらせていただきたいと思いますと思っておりますので、よろしくお願い致します。

県の補助金について、藤岡総合病院さんが8億3,500万、鬼石病院さんが700万で、その差があるにも関わらず、鬼石病院さんの外来患者数が少ない中、非常に収入をあげていて、素晴らしいなど。すべてが目標に到達していることは本当に素晴らしいなど、本当にご苦労様だったと思っております。また、前回の時も、患者満足度が素晴らしいかたちでアンケートを取っておりましたが、今回もまたそれ以上に満足度を上げてきているのは、非常に素晴らしいと。前回、藤岡総合病院さんは低かったんですけども、前回の時に鬼石病院さんはどうしているのかなということも、たぶん参考にされたのかなと思っております。

先程、秋葉会長さんからもお話がありましたように、私も実は総合病院さんにごこ直近で2度お世話になりました。非常に看護師さんも窓口さんも素晴らしい対応をしてくださっていますので、もうちょっと満足度が良くなっているのかなと思っておりました。中身は、駐車場とかレストランなどで、その辺は納得できたかなと。看護師さんは今まで通り続けていただければ、より一層、総合病院の評価が上がるのかなと思っております。

ただ看護師さんに、何か希望はないか、なんとなく聞いてみました。「看護師さんが少ない」と。「とにかく忙しくて大変ですよ」という話がありましたので、一応調べさせていただきました。看護職員さんが293名、職員さんが560名いらっしゃるということなので、できるのであれば、この辺の改革をされたらいいのかなということを感じました。藤岡総合病院さんの場合は、8億3,000万という助成金に対して、ちょうどその金額分だけ収入が減っているなかで、それを収支して毎月の経常収支が合っているのかなと。そういう中で、5億くらいの欠損が出るのは、やはり減価償却が11億7,000万もあると。11億7,000万

の減価償却がある中では素晴らしいなと思っております。

ご質問ですが、保留資金というものがありますが、どこから出てきているのか、あるいは決算上でこの数字が7年間で50億になりますので、この数字がどこに行ってしまうのかなど。教えていただきたいなと思います。よろしくお願い致します。

【高橋委員長】

はい、ありがとうございます。事務局の方からお願いします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

先程の質問ですが、それについての留保資金は、減価償却費や資産減耗費等の現金支出を必要としない費用の計上により、毎年留保されている資金ということになります。この資金が、過年度の損益勘定留保資金全て合わせると、66億円ほどの資金が留保されている状況となっております。令和2年度については、資本的収支の不足分の7億円を補填しているということになります。以上です。

【高橋委員長】

それでよろしいでしょうか。

【守口委員】

はい、ありがとうございます。また勉強します。

【高橋委員長】

それでは、同じく産業界を代表して、鬼石商工会の林会長さん、よろしく申し上げます。

【林委員】

林と申します。レベルが合わなくて質問がとてもできません。ただ、患者満足度が藤岡総合はなぜ低いんだと思っていたんですけれども、駐車場と聞いてとても安心しました。

鬼石病院と藤岡総合で同じような人がやっているのになぜ違うんだろう、と前回出た時を感じていました。その理由が分かったので、とても安心しました。以上です。

【高橋委員長】

はい、ありがとうございました。そうすれば、一通り皆様にお話を伺いましたので、他にみなさんの方からあればお願いします。

【林委員】

藤岡総合には、エクモが5台あるという噂を聞いたんですけれども、どうなんでしょうか？

【公立藤岡総合病院長 塚田】

エクモは1台あります。ただ、エクモを要する重症度の方は当院ではお受けしない、ということになっていて、人工呼吸器のレベルの方は2人受けるということになっています。

その他、軽傷・中等者を中心にお受けする、ということです。本来、エクモなんですが、心筋梗塞ですとか重症の呼吸不全の患者さんに使うための機械として確保してあります。

【林委員】

エクモがあるのに使わせてもらえない、という話を聞いたことがあります。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

いえいえ、そういうわけではなくてですね、病院の役割として、エクモを使うのは、群大、日赤、高崎総合、太田記念ですね、三次救急を行うところがコロナの重症患者さんを診るということになっています。ただ、重症化をしてエクモが必要なレベルまで行ったとしても、当院から移すことは不可能だろう、というレベルになってしまう。人工呼吸器管理は、当院でできるベストの対応だろうと。

【林委員】

はい、わかりました。

【高橋委員長】

ありがとうございます。よろしいですか？今までのお話をお聞きになって、木村先生の方から、実績についてご意見があれば、よろしくお願い致します。

【木村副委員長】

先程もお話させていただきましたように、2020年度は、コロナで一番厳しくて経営の舵取りが厳しいときだったと思います。ちょうど2月頃から、コロナが騒ぎ始めて、たぶんどこも全国的な医療機関も患者が受入れできない、そして外来も激減したという状況だったはずで。7月8月あたりから少しずつおきて来て、この間に、コロナ病床に対応できた医療機関と、そうでない医療機関、様々あるんですが、なかなか国の方も補助金がフラフラしていた時期があって、年末くらいになって、ある程度補助金もちゃんともらえるということになってきた、ということです。その中で、ほんとに両病院とも、経営判断が難しいなかでコロナの患者さんを診ながら地域貢献をし、そして立ち向かってきた、ということがあると思います。

特に鬼石病院は、医師が減ったという厳しい状況でもこれだけ数字が良かった、というのは素晴らしいことだと思います。さらに素晴らしかったのは、循環器の教授を招聘できた、というのは、たぶんすごいことだと思います。私としては、2020年は本当に、花マルをつけていいんじゃないかと、思っております。以上です。

【高橋委員長】

はい、ありがとうございます。それでは、時間も限られておりますので、またその他のと

ころでご意見があれば伺いたいと思います。

議題（２）、改革プラン、継続計画について、藤岡総合、鬼石病院の順で、事務局から一括で説明をお願いします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課企画グループリーダー 萩原】

新公立藤岡総合病院改革プラン継続計画、ということで説明させていただきます。

先程から説明させていただいた新公立病院改革プランは、令和２年で終了となっております。

令和３年度以降の計画については、総務省が示す新公立病院改革ガイドラインに沿って作成することとなっております。しかし、令和２年夏頃に示される予定だったガイドラインはまだ示されておられません。群馬県の担当者に確認したところ、令和４年度になるであろうという回答をいただいております。そこで、鬼石病院さんとの協議の結果、自主的に３年度以降の計画を作成することとしました。計画内容自体は変更せずに、数値目標のみ令和５年度まで延長しました。よって、来年度の、本委員会においては、令和３年度の実績を評価することとなります。また、数値目標は、現段階のものであり、今後変わることもありますので、その際にはまたご報告等を申し上げたいと思っております。

作成しました、３、４、５年度における数値目標については、令和３年度予算をベースとして、平成２６年度以降の伸び率や現状等を考慮し、令和４年度、及び５年度を算出しております。また、新型コロナウイルス関連の補助金については、令和３年度までの計上とさせていただいて、令和４年度、５年度は、現在のところは見込んでおりません。

４ページ、上段の、収入（２）国（県）補助金、がそれにあたります。その他数値についてはご覧になって頂ければと思います。また、本継続プランについては、総務省の方からガイドラインが示され次第、変更または再作成することとさせていただきます。以上、誠に簡単ではございますが説明とさせていただきます。よろしくお願い致します。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長補佐兼庶務係長 櫻井】

続きまして、資料４をご覧ください。

鬼石病院におきましても、同様に、計画内容は変更せず継続し、数値目標のみ令和５年度まで延長いたしました。１ページから５ページまで、赤文字で示した２年度までが実績、３年度以降の計画を黒文字で示してあります。作成しました数値目標につきまして、３年度については、予算及び上半期の実績をもとに下期の数値を見込み、計画いたしました。４年度及び５年度については、平成２６年度以降の伸び率や現状等を考慮し算出しております。また、新型コロナウイルス関連の補助金については、見込んでおりません。

その他数値についてもご覧いただければと思います。詳しい内容は、先程ご説明があった通りですので、私の方はこれで説明とさせていただきます。以上です。

【高橋委員長】

はい、ありがとうございました。

継続計画については、事務局から説明がありました通り、所管をする厚生労働省なり県のほうからまだ具体的な方針が出ていないということで、本委員会も、継続して、やっていきたいと思うんですけども、その元となる数値を現時点で作っていかうということで、両病院のほうで、継続計画を作っていた、ということです。

これについて、皆さんからご意見ご質問があれば、お願い致します。
はい、守口委員。

【守口委員】

先程、色々質問をさせていただいたところでちょっと最後に分からない部分があったので、長くなりそうなので、終わってからまた、もう一度質問させて下さい。

質問はですね、改革プラン、継続プラン、と見させていただいて、ほぼ例年通りと同じような形で文言が書かれているんですけども、これに対して何か業務改善とかたちで、お考えがあれば教えていただきたい。特に、材料費とか、経費とか、どういう形で今後考えて、藤岡総合病院のマイナスを補っていく計画でいるのか、ということをお聞かせいただきたいなと思っております。よろしくお願い致します。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

今回の改革プランについては、ある程度今の実績値を踏まえて作成しておりまして、経費等の削減につきましては、今後、予定としてなんですけど、材料費については、外部委託契約をして薬品費を下げっていくようなことも考えております。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

院長の私から補足したいと思います。

経費の削減については、医療材料、薬品の購入ですね、高額といえども必要な治療というのはやらざるを得ないですし、医療の進歩を患者さんに還元するというのが中心になるわけです。赤字にしてまでその薬品を使うということではありませんので、購入を他の病院と同じように努力していくのは同じですが、いかに患者さんを増やすか、ということですね、先ほど医師確保のことに触れましたけれども、医師が来なければその診療科に関係する患者さんは弱くなると。同じ医師会でも当院の魅力が失われてしまって患者さんが他の地域へ逃げていくと。これもあってはならないことでもありますので、情報発信をしたり、他の地域からも当院に積極的に来ていただく努力を重ねたいと思います。紹介率は非常に上がってきてまして、紹介型という濃い外来診療はできていますけれども、コロナの影響に隠れて、当院の集客力が徐々に低下してはならない、と、その辺の分析もしていきたいと思っております。以上です。

【守口委員】

ありがとうございました。それで大変ぶしつけな質問なんですけれども、私も70人ほどの会社を経営していますが、利益が出ないことには企業をやっている意味もないし、病院もその辺を含んだ中で経営をされているんだと思いますが、もし今の経費削減が駄目であれば、個室

の病床の料金を上げるとか、1ベッドに対してたとえば500円上げるとか、もしそういったことができるのであれば、料金そのものは規定があってもう変えられないと思いますので、そういう方向も、もし視点を変えていただけるのならば、ありがたいかなと思っております。ありがとうございました。

【高橋委員長】

ありがとうございました。それを踏まえて料金の方もまた藤岡総合の方で検討すると思いますので。そのほかに皆さんご意見ありましたら。

【木村副委員長】

病院経営の簡単なお話をさせていただきたいと思います。

病院経営というのは、非常に、職員給与比率が高く、なかなか固定費というものを動かさないということがあります。材料費に関しましては、先程色々削減の工作の話がありましたが、実は薬がどんどん高騰しておりまして、一時、C型肝炎が治るという薬、これに関しては1回の治療で薬剤費が600万円かかると。それまではそういった薬がなかったものですから、たとえばそういった新しい治療を導入するにあたって、藤岡総合病院、もしくは県内の他の病院もそうなんです、どうしても材料費が上がってしまう傾向にあります。技術料は残念ながら数千円とか1万円くらいだったりして、ほとんどが薬剤費です。今、世の中に出ている一番高額な薬というのが、難病の治療の薬なんです、1回の治療で、1億2,000万かかると。こういったものが1つ2つ出てしまうと、もしくは抗がん剤もそうなんです、一時、問題になったのがオプジーボ。当初は、1回の治療で3,000万円。こういったものが、どんどん新しい治療をやって、患者さんのためにということで進んでいきますと、なかなか薬会社さんも値引きをしてくれないものですから、自分たちがオンリーワンですから、なかなか病院の方も、材料費は見栄え上は上がってしまっていて、売上也当然上がることになるんですが、材料比率は高くなってしまっている、そういった構造であります。さきほど、塚田院長が仰ったように、患者さんを増やしてですね、いかに効率的に患者さんを診ていくか、というところにあるのではないかと思います。

それと、なかなか公立病院の性格からして、個室料とかこういったもの、実は個室料も届出制でして、あまり高いと、県の方から「ちょっとちょっと」と、というようなことを言われることもありますので、公立病院はあまり高くできない。これが東京都内の、慈恵医大とか有名なところでしたら、1日30万円でも患者さんが来たりする状況もありますけれども、どちらかというと地域の方が入院することが簡単にできるか、負担がなくするか、というところが今重要などころではないかと思います。

特にこれから経済が悪くなりますと、そういったことで負担が増えることによってアクセスが悪くなってしまえば本末転倒になってしまいますので、そういったことを考えなければならぬという非常に難しい経営の舵取りを院長先生おふたりはされているんじゃないかなと思います。以上です。

【高橋委員長】

はい、ありがとうございました。これに皆様から、何かありますか。

【林委員】

一昨年、昨年のデータと今年を比べて、だけではなくて、同規模の他の病院と藤岡総合はこう違うんだ、というところを知りたいですね。以上です。

【木村委員】

実は、経営の効率性を見られるデータが年に1回くらい発表されるんですけども、群馬県内の病院は全国でも非常に上でして、公立藤岡総合病院は、確か2年前に、トップ10に入っていたと思います。本当に群馬県の公立病院はうまく経営をしているなど。太田総合、上位トップ5に入っています。そういったかたちで、企業経営からみると、補助金がたくさん入ってけしからん、というような形はあるかもしれませんが、非常に頑張っている病院というのが分かります。一応経営の効率性というところを見ると、公立藤岡総合病院はほんとに上位に行く病院である、というところがあります。以上です。

【高橋委員長】

ありがとうございました。次回もまた参考に、委員会で先生に用意してもらおうようにしますので。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

一言だけいいですか。先ほど倉林先生のお話が出ましたが、地域連携医療センター長というかたちでお仕事をしていただいているわけですが、単に入院患者数を増やすということではなくて、群馬県の循環器の医療に貢献したい、と様々な活動をしていただいております。

そういうことがまた群馬県全体のレベルを上げることに通じるとは思いますし、個人的には、旧保健センターもありますので、そういうところを現在のコロナの問題ですね、保健福祉事務所、あるいは病院、さらには周りの介護施設でもクラスターが発生したりして非常に苦勞しておりますが、当院としては、感染症対策センターみたいなものを作って地域に貢献できればプラスの面が出てくるのではないかと考えておりますので、そういう構想もあると、個人的考えではありますけれども、この場でお伝えしたいと思います。以上です。

【高橋委員長】

はい、ありがとうございました。

(3) その他、特に議題はないですかね？それでは皆さんから(1)(2)に関することでもいいですし、ぜひともこれだけは、というものがありませんでしたら。

どうぞ、秋葉委員。

【秋葉委員】

細かい話で申し訳ないのですが、駐車場、第2駐車場ですが、入り口と出口が決まっているんですよね、出口の方の看板が大変申し訳ないのですが、見づらいんですよね。下に低くあるだけで、西側の方から行くと、どこから出ていいのかちょっと分かりにくいので。もう少し高く看板を掲げていただくと見やすいんですけど。違うところへ入って行ってしまって、出口が見つからなくて、最後のところで出口が見つかるんです。申し訳ないのですが、ちょっと高く看板を上げてくれればいいと。突き当りのところに1本だけ出口の看板がありますが途中まで何もないので、できたら看板を高く上げてもらえればと思いました。

【公立藤岡総合病院 経営管理部長 新井】

ご指摘につきましては、早急に現場を確認しまして、対応させていただきたいと思います。車の動線がありますので、入ったところと出るところはちゃんと分かるようにしていきたいというふうに考えます。

【高橋委員長】

よろしくをお願いします。あとはよろしいですか？

では、議題すべて終わりましたので、議長の役は終了させていただきたいと思います。事務局よりお話をお願いします。

5 閉 会 （司会より）

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

委員の皆様方におきましては、長時間、ご議論いただきまして、大変ありがとうございました。今回いただきました貴重なご意見を大いに参考にさせていただきまして、両病院とも、今後の病院経営に役立てていきたいと思っております。ありがとうございました。

以上を持ちまして、本日の、公立藤岡総合病院改革プラン、藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会を閉会とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

午後8時05分 閉会
